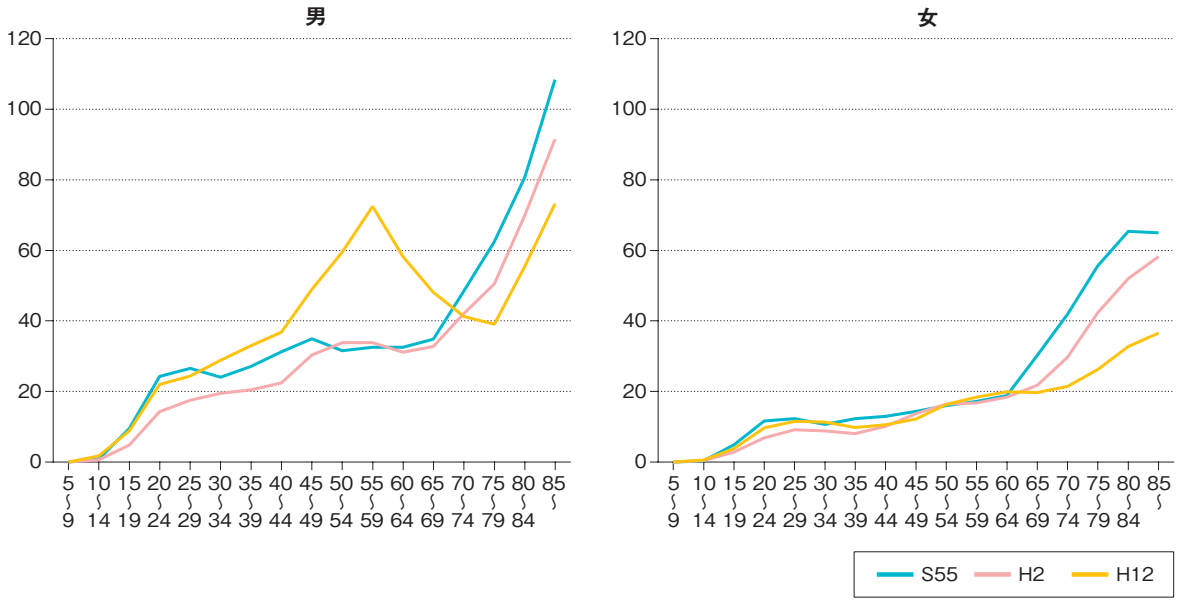
［第1-1-20図］年齢階級別の自殺死亡率の年次比較

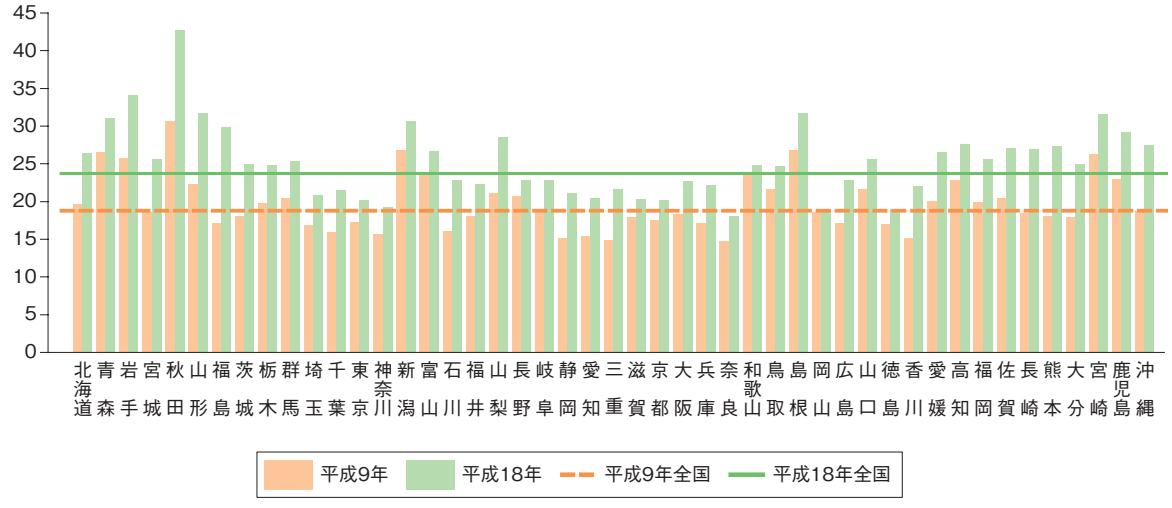


資料：厚生労働省「人口動態統計」

9　都道府県別の自殺の状況

都道府県別の自殺の状況について人口動態によれば（第１－１－21図）、北東北、南九州で自殺死亡率が高い傾向にある。自殺者数が急増する以前の平成９年との比較では、全ての都道府県で自殺死亡率が上昇している。

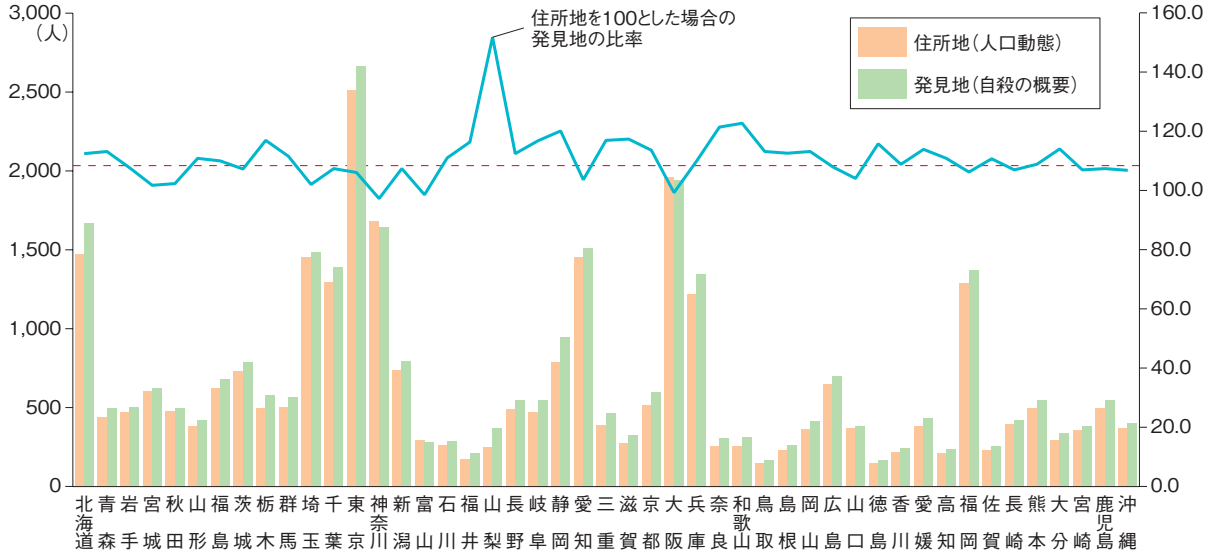
［第1-1-21図］平成9･18年における都道府県別自殺死亡率



資料：厚生労働省「人口動態統計」

次に、都道府県別の自殺者数について住所地・発見地別にみると（第１－１－22図）、住所地の自殺者数（人口動態）に比べ、発見地の自殺者数（自殺の概要）が多くなっているところがあり、住民以外の自殺防止についても配慮が必要である。

［第1-1-22図］平成18年における住所地・発見地別の自殺者数



資料：厚生労働省「人口動態統計」及び警察庁「自殺の概要資料」より内閣府作成

10　手段別の自殺の状況

手段別の自殺の状況について人口動態によれば（第１－１－23図）、昭和20年代後半～30年代後半にかけては男女ともに「薬物」が最も多かったが、毒物・劇物の取扱に対する法規制の強化と指導・取締の徹底により、その後は「薬物」が激減した。40年代以降は「縊首」が増加し、男女とも「縊首」が最も多い傾向が続いている。

平成17年をみると、男性は「縊首」（64.5％）、「ガス」（17.5％）、「飛び降り」（6.3％）、女性は「縊首」（60.4％）、「飛び降り」（11.2％）、「ガス」（7.3％）の順となっている。

なお、「ガス」は平成15年に男女とも前年の倍以上の割合に増加しており、男性はその後も増加している。